

ゆ 夢に見るほど考える

まちづくりだけでなく、どのようなことでも次の妙手を求められる時はある。しかし、出口が見えてこないことはある。出口は論理だてて考えれば見えてくるものでもない。発想のジャンプが必要なことも結構ある。かといって、根を詰めて考えれば良いかというところでもない。まあ、私の能力の限界ということなのかもしれないが、そうなること困ったものだ。

アルキメデスの逸話ではないが、新しい発想は根を詰めて考えている時にはなく風呂に浸かっているときなど意外な時に降ってくることがある。「果報は寝て待て」というありがたい言葉もあるが、文字通り寝てばかりいても発想のジャンプは訪れない。考え込んではいけなし、寝て待たせてもいけないとなるとどうすれば良いのか。

私に新しい発想が降ってくる時はどんな時なのだろう。そもそもそんな体験はめつたにないので自信を持って語れないのだが、それでも次のような感じか。やはり根を詰めて考えることはしなければならぬと思う。頭の中だけで考えるのではなくテキストにしてみたり図にしてみたり視覚も使って考えるようにもする。さらに関連する情報も徹底して集めて斜め読みでも良いので目を通すようにする。そうすると意識下に何が残るようになる、ような気がする。要は根を詰めて考えることによって、それも視覚情報としても頭に入れるように努力すると、そのことを意識的に考えていなくても、脳のバックグラウンドで思考が続けられる。そうなるような気がするのだ。

そうすると、街中でふと目にしたものとかが、片隅にころがっている情報とか、偶然の人との出会いとかにビビッと反応することがある。シャワーを浴びたり、横になってぼーっとしている時にも降りてくることがある。つまり「夢に見るほど考える」ということだ。ただし夢に良いアイデアが浮かぶということではないことは要注意。だいたい夢で良いことを考えついたら思っても目が覚めたらそれが何だったのか思い出せないのが常だ。枕元にメモできる用意をして寝ると言う話も聞かすが、夢は夢で楽しめた方が良い。それくらいのゆとりを持たなければ長いまちづくりをやっていかない。